

# 平成15年度試験研究成果書

区分	普及	題名	産地直売施設における生産流通支援システムの導入効果	
[要約] 生産流通支援システムの導入により得られた在庫・販売情報を活かして、生産者が販売上の工夫を行うことにより、残品率の減少や売上増加の効果がみられている。また、消費者は目的の商品が買いやすくなったことを評価している。				
キーワード	産地直売施設	生産流通支援	在庫管理	企画経営情報部農業経営研究室

## 1 背景とねらい

産地直売施設の運営にあたっては、扱う品目、生産者が多いため十分な在庫管理がなされていないこと、需給調整が難しいため残品率が高くなること等が課題となっているが、これら課題解決のためにはITの活用が効果的であることが知られている。こうした観点から、県のモデル事業により生産者・消費者間で商品に関する情報共有を可能とするシステムを東北で初めて導入した「江刺ふるさと市場」での事例をもとに、その導入効果や課題等について整理した。

## 2 成果の内容

### (1) システムの導入効果

ア 多くの生産者が、出荷商品の在庫量や販売実績の確認のためシステムを利用しており(図2)「施設に行かなくても売行きを確認できる」こと、「月別・品目別の販売状況が集計されるので、今後の出荷・栽培計画の参考になる」ことを評価している(表3)。システムから得られた情報を活かし「売れる機会を逃さないよう、在庫状況に応じて追加出荷」したり、「販売状況をみて出荷品目や出荷数量の変更や調整」をするなどの工夫を行うことにより(表4) 売れ残りの減少や、売上増加の効果がみられている(表5)。

イ 消費者は、産地直売施設に対し地場産の新鮮な農産物を中心とした豊富な品揃えを期待している。こうした背景から、店頭の商品揃えや目的の商品の在庫を確認するためシステムを利用しており(図2)「目当ての商品が買いやすくなった」ことを評価している(表6)。

### (2) システムの構成例

ア システムは、生産者向け、消費者向け、共通ページからなり、インターネットを介してパソコン、携帯電話、LモードFAXから利用できる。消費者は、商品の入荷・在庫状況や、商品毎の生産情報(写真、栽培方法、生産者からのPR等)が閲覧できる(表1,2)。

イ 生産者は事前にシステムで出荷予約を登録できるが、ハンディバーコードターミナルによる検品を出荷時に行うことにより、确实かつ効率的に商品数量・価格をシステムに登録することができる。販売による商品の減少は、POSレジスタを通すことによりシステムに反映され、集計されたデータが在庫情報として消費者、生産者に提供される(図1)。

### (3) 運用にあたっての課題

ア 調査時点で、半数弱の生産者がシステムを利用していない(図3)。システムの利用率を高めていくためには、操作法が分からない生産者を対象とした利用講習会の開催や継続的なサポート体制の整備、売上増加や残品率の減少等に成果をあげている生産者の取り組みの紹介、パソコン等利用機器の導入支援等が効果的であると考え(図4)。

イ 生産管理情報入力を行っている生産者が少ない(図2)ため、この登録充実が課題となる。

## 3 成果活用上の留意事項

導入する機能やPOSレジスタ等導入済機材の有無によって、構築に要する費用(数百万~1千万円程度)が異なるので、導入にあたっては予算や活用目的に応じて仕様を検討する必要がある。

## 4 成果の活用方法等

### (1) 適用地帯又は対象者等

農協や第3セクター等が運営する大規模な産地直売施設、行政・関係機関の指導担当者

### (2) 期待する活用効果

生産流通支援システムの導入により、販売増加等に効果をあげる産地直売施設が現れる。

## 5 当該事項に係る試験研究課題

(H15-02)産地直売施設における情報活用法の解明(H15~H16、県単)

## 6 参考資料・文献

(1) 平成10年度試験研究成果「農産物直売所の展開条件」

(2) 農林水産技術研究ジャーナル「特集：ITによる新しい農業の展開」, 2001年7月

(3) 藤島廣二・辻和良・櫻井清一・村上昌弘「農業経営の個別マーケティングの意義と限界 - 野菜の個別マーケティングを対象に - 」, 農業経営研究 33(2), 1995年

## 7 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 モデル産地直売施設の概要

名称	江刺ふるさと市場
設立	平成13年9月
立地条件	農村地域 主要道沿
運営形態	農協直営
組合員数	165名
主要品目	野菜 果物 加工品、米
売上額	約3億円(平成14年)
システム導入経過	地産地消システム構築モデル事業(H14~15)により導入。15年8月から試験運用開始。 [アクセス数](12/3現在) 16,302件、約130件/日

表2 江刺ふるさと市場「地産地消システム」の内容

【消費者向けページ】		【生産者向けページ】	
入荷品情報	当日入荷した商品一覧を表示	出荷管理	出荷予約入力
入荷品在庫情報	入荷商品の在庫数を表示	販売情報	販売数量速報(当日)
人気商品ランキング	直近1週間の販売状況(数量別、金額別)上位20品目を表示		販売数量一覧(月別、累計)
商品ラベル検索	バーコードラベルの番号の入力により、商品の生産情報を表示		出荷予約実績一覧(月別)
生産者検索	生産者・品目別生産情報を表示		販売金額一覧(月別)
【共通ページ】		生産管理	出荷スケジュール入力
イベント情報	予定しているイベントの案内		作業記録入力
市場生中継	施設内のライブ映像を表示		生産管理情報入力

注) 生産者番号、暗証番号を入力してログインする。  
江刺ふるさと市場では、このシステム全体を「地産地消システム」と称している。

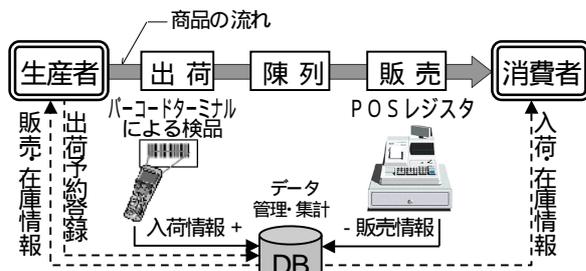


図1 商品及び商品情報の流れ

表3 システムに対する生産者の評価

	回答数	割合%
施設に行かなくても売行きを確認できる	47	83.9
販売状況が集計され今後の参考になる	23	41.1
買い物の様子が伝わり励みになる	6	10.7
消費者に生産情報を提供できる	4	7.1
回答無	7	12.5

システム利用生産者56名が回答

表4 システム利用生産者の行動の変化

	回答数	割合%
売上を見て出荷数量を調整	38	67.9
在庫量に応じて追加出荷	23	41.1
売行きを見て出荷品目を変更・調整	14	25.0
回答無	11	19.6

システム利用生産者56名が回答

表5 生産者から見たシステム導入の効果

	回答数	割合%
売れ残りが減少した	19	33.9
売上額が以前より増加した	11	19.6
その他	8	14.3
回答無	22	39.3

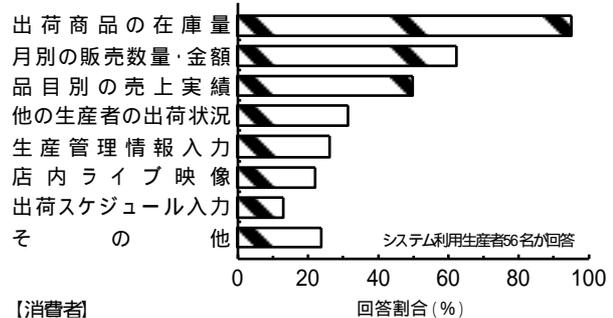
システム利用生産者56名が回答

表6 消費者から見たシステム導入の効果

	回答数	割合%
目当ての商品が買いやすくなった	12	40.0
商品に対する安心感が高まった	9	30.0
品揃えが良くなった	4	13.3
分量が店頭と並ぶようになった	4	13.3
その他	2	6.7
回答無	8	26.7

消費者モニター30名が回答

【生産者】



【消費者】

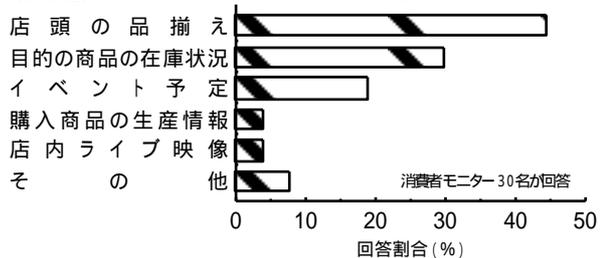


図2 システムの利用状況

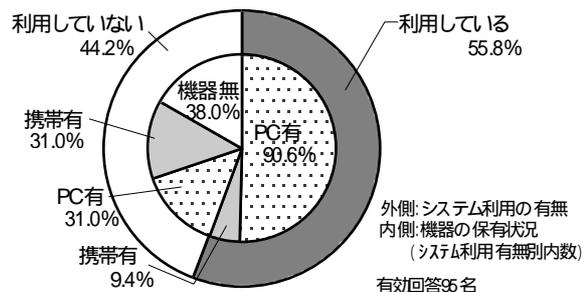


図3 生産者のシステム利用状況及び機器保有状況

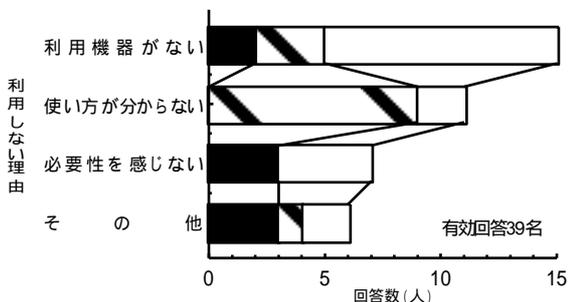


図4 システム非利用生産者の今後の利用意向